

JWA JAPAN TOUR 2021-2022 WAVE#1 COLD BREEZE 2021 PRO-AMA TOURNAMENT

レポート 白方優吏、笹尾香南

日程 2021年12/25~26日

静岡県御前崎市ロングビーチ坂下ポイントにて行われた、コロナ禍2年ぶりの第1戦コールドブリーズ。

総勢19名のプロ、アマライダーが集まった。

大会当日気温は、朝9時のスキッパーズミーティングの段階で4℃、年末の大寒波のもと行われた。

コンディションは風速15m前後、波はセットでモモ~たまの胸といったスモールコンディション。

低気圧からなる西風のいつもの御前崎とは異なり、日本海側に入った大きな大寒波からなる御前崎の海上の雰囲気は暴風小波のいつもとは異なって見えた。

午前10時、アマチュアラウンドから順順に開始された。

今回の大会はアマチュアラウンドから勝ち上がった、4名の選手がプロのヒートへ組み込まれて行くシステムだ。

特別協賛の(株)ジェイテック藤本様、コピポット様、誠にありがとうございました。

プロ

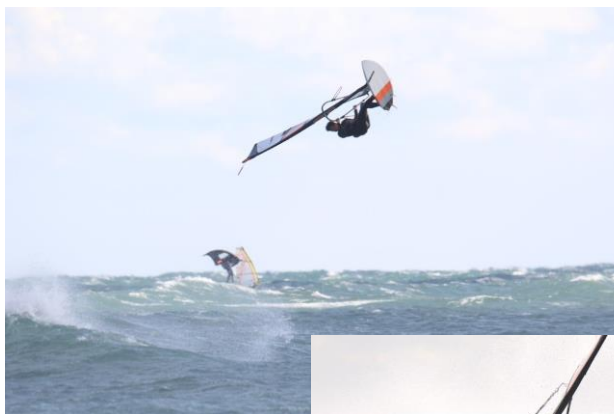
メンズプロリザルト

総合順位

- 1位 石井孝良
- 2位 石井颯太
- 3位 杉匠真
- 4位 小林悠馬

(シングルイルミネーション リザルト)

- 1位 石井孝良
- 2位 杉匠真
- 3位 小林悠馬
- 4位 石井颯太



ウィメンズプロリザルト

総合順位

- 1位 佐藤素子
- 2位 笹尾香南
- 3位 森美奈子
- 4位 多賀須恵



(シングルイルミネーション リザルト)

- 1位 佐藤素子
- 2位 森美奈子
- 3位 笹尾香南
- 4位 多賀須恵



メンズプロレポート

今大会メンズプロクラスは石井兄弟が1位2位と表彰台を独占。

3位4位はフリースタイル王者、杉、小林が入賞した。

優勝した石井孝良、安定の波取り、そして昨シーズンよりも磨きを掛けてきた波乗り、Tブッシュ。

シングルイルミネーションファイナルラウンドでの石井、杉の2ジャンプを揃えた後でのダブルフォワードへのトライは、日本のウェイブシーンへ刺激を与えた事間違いない。

2位の石井颯太は、ファーストラウンドから勝ち上がり、昨シーズン年間ランキング3位の白方を倒しての勝ち上がりを見せた。

御前崎ローカルと言うアドバンテージだけで勝ち上がった訳ではなく、プアーなコンディションで彼は存在感を見せつけた。これはコロナ禍での海外遠征、トレーニングの賜物である事は、海の上での彼のライディングを見れば紛れもない。

昨シーズンプロ入りした新進気鋭の10代プロライダー石井颯太、目が離せない。

3位4位のフリースタイルでも優勝している、杉、小林。

バックサイドシャカやシャカ、フリースタイラーならではのフロー感を見せた2名。

海上を走れば、どんな技を海外から持ち帰って来た？と目を釘付けにさせる杉。

昨年父親になった小林悠馬の背中では昨シーズンよりも、力強く何かを見せてくれそうな会場へのワクワク感を見せた。



ウィメンズプロレポート

鉄壁の女王 **Motoko** を追う形で展開されたウィメンズプロ。シングルイルミネーションファイナルでは森が得意の波乗りで応戦するものの、波乗り、ジャンプと安定のライディングでまとめた **Motoko** が1位の座に鎮座した。ウィメンズプロのダブルイリミネーションは2日目に持ち越しとなり、この冬1番の寒気が流れ込んだ極寒の26日朝に始まった。気温3℃。沖合では白波が飛んでいるにも関わらず、寒気が強すぎる故インサイドは非常にガスティでボード、セイルチョイスが難しいコンディション。多賀須は綺麗なフォワードでその日の女子のジャンプ最高得点を叩き出すが、僅差で笹尾に敗れた。逆境に強く、ルーザースブラケットからの這い上がりを得意とする笹尾は勢いによって森とのヒートを勝ち進み、そのままファイナルへとコマを進めた。ダブルイルミネーションウィメンズファイナルは不安定な風の中、両者ジャンプに苦戦したが、安定した力強い波乗りを披露する **Motoko** に対し、笹尾はセットを待ち波のサイズと形に拘って好戦したものの、ジャッジ判定2対1で優勝はディフェンディングチャンピオン **Motoko** に軍配が上がった。

ウィメンズは女王 **Motoko** となって久しいが、メンズのような世代交代が起きるのか。次世代の女性ウェイバーの育成にも力を入れ、盛り上げていきたいと思う。

アマチュア

リザルト

- 1位 野口颯
- 2位 高梨佑樹
- 3位 秋元大
- 4位 多賀須淳

ベストアマチュア賞 野口颯



アマチュアレポート

今大会アマチュアラウンドでは、10代のライダーが2名も上位入賞者に入っている。

1位は野口颯、野口プロの息子だ。

御前崎で学校終わりの放課後も練習をしている中学生努力家。安定感のあるフォワードループを見せ、アマチュアラウンドを勝ち上がった。

中でも一際目を引いたのは、ダブルフォワードへのトライ。今後期待大の御前崎のアップカマーが現れた。

2位高梨佑樹、湘南をベースとした高校生ライダー。

ウェーブ、ジャンプ大会を意識した、ヒートでの組み立ては緊張感を見せない落ち着きを見せた。今後もバランスの取れたライディングに磨きがかかってくるであろう。

3位4位

秋元大、多賀須淳2名とも湘南からの出場。

関東でウェーブのゲレンデに出向けば、高確率で出会える玄人ウェーブライダーだ。

波を取れば安定のウェーブライディング、フォワードループ。下から押し上げてくる、若いライダーの高い壁に今後ともなっていきたい。

特別協賛

(株) ジェイテック 藤本様



コピポット様提供 コピ塩

